

# 近畿大学医学部 (前期) 2014 年度入学試験 解答速報 物理

平成26年 1月26日 実施

## I

(1) すべる直前の斜面方向の力のつり合い式  $mg \sin \alpha = \mu mg \cos \alpha$  より  $\mu = \tan \alpha$ .

(2)  $F$  の力を加えて静止しているときの、斜面に垂直な方向のつり合い式より、 $N = mg \cos \beta + F \sin \beta$ .

(3) すべる直前の斜面方向および斜面に垂直な方向のつり合い式は、

$$\begin{cases} mg \sin \beta = F_0 \cos \beta + \mu N \\ N = mg \cos \beta + F_0 \sin \beta \end{cases}$$

これより  $N$  を消去すると、

$$F_0(\cos \beta + \mu \sin \beta) = mg(\sin \beta - \mu \cos \beta) \quad \dots \textcircled{1}$$

$\mu = \tan \alpha$  を代入、さらに両辺に  $\cos \alpha$  を掛けると、

$$F_0(\cos \beta \cos \alpha + \sin \beta \sin \alpha) = mg(\sin \beta \cos \alpha - \cos \beta \sin \alpha).$$

$$F_0 \cos(\beta - \alpha) = mg \sin(\beta - \alpha).$$

よって  $F_0 = mg \tan(\beta - \alpha)$ .

(4) (i) (3) と同様に、つり合い式を作ると、

$$\begin{cases} mg \sin \beta = F_1 \cos \beta + \mu' N \\ N = mg \cos \beta + F_1 \sin \beta \end{cases}$$

これより  $N$  を消去し、 $F_1$  について解くと、 $F_1 = \frac{\sin \beta - \mu' \cos \beta}{\cos \beta + \mu' \sin \beta} mg$ .

(ii) (i) と (3) の  $\textcircled{1}$  式より

$$F_1 - F_0 = \left( \frac{\sin \beta - \mu' \cos \beta}{\cos \beta + \mu' \sin \beta} - \frac{\sin \beta - \mu \cos \beta}{\cos \beta + \mu \sin \beta} \right) mg.$$

$\mu > \mu'$  より  $F_0$  の方が分母は大きく、分子は小さくなっているため、 $F_1 - F_0 > 0$  とわかる。

(5) (i)  $W_g = mgl \sin \beta$ .

(ii)  $W_{F_1} = -F_1 l \cos \beta = -\frac{\sin \beta - \mu' \cos \beta}{\cos \beta + \mu' \sin \beta} \cdot mgl \cos \beta$ .

(iii)  $W_f = -\mu' N l = -\frac{\mu' mgl}{\cos \beta + \mu' \sin \beta}$ .

(注:  $W_g + W_{F_1} + W_f = 0$  の関係より求めてもよい.)

(iv)  $W_N = 0$ .

## II

(1) 定常状態なので、コイルに流れる電流は、 $I_0 = \boxed{0 \text{ [A]}}$  となる。

よって、 $C_1$  には電池の電圧  $V$  がかかるので、 $Q_0 = \boxed{CV \text{ [C]}}$ 。

コイルに蓄えられたエネルギーは、 $U_{0L} = \frac{1}{2}LI_0^2 = \boxed{0 \text{ [J]}}$ 。

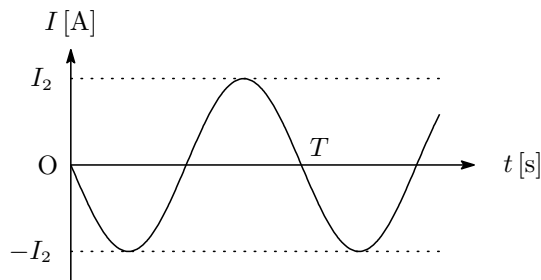
コンデンサー  $C_1$  に蓄えられたエネルギーは、 $U_{0C} = \boxed{\frac{1}{2}CV^2 \text{ [J]}}$ 。

(2) スイッチを閉じる直前のコイルに流れている電流と同じなので、 $I_1 = \boxed{0 \text{ [A]}}$ 。

(3) 電気振動は、 $L$  と  $C_1$  の間で起きるので、 $\omega = \boxed{\frac{1}{\sqrt{LC}} \text{ [rad/s]}}$ 、 $T = \boxed{2\pi\sqrt{LC} \text{ [s]}}$ 。

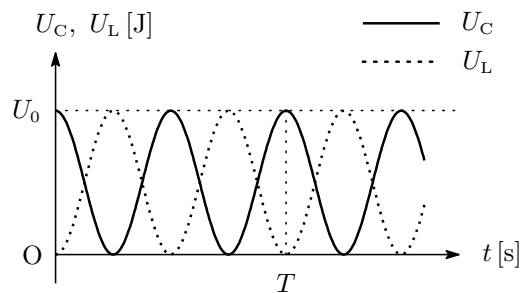
(4)  $L$  と  $C_1$  の間でのエネルギー保存則より、 $\frac{1}{2}LI_2^2 = \frac{1}{2}CV^2$ 。よって、 $I_2 = \boxed{V\sqrt{\frac{C}{L}} \text{ [A]}}$ 。

(5) 始め  $I < 0$  の向きに流れ始めるので、 $I = -I_2 \sin \omega t = \boxed{-V\sqrt{\frac{C}{L}} \sin \frac{t}{\sqrt{LC}}}$ 。グラフは下図。



(6)  $U_L = \frac{1}{2}LI^2 = \frac{1}{2}CV^2 \sin^2 \omega t = \boxed{\frac{1}{4}CV^2 \left(1 - \cos \frac{2t}{\sqrt{LC}}\right)}$ 、

$U_C = U_0 - U_L = \frac{1}{2}CV^2 - \frac{1}{2}LI^2 = \frac{1}{2}CV^2 \cos^2 \omega t = \boxed{\frac{1}{4}CV^2 \left(1 + \cos \frac{2t}{\sqrt{LC}}\right)}$ 。グラフは下図。



(7)  $C_2$  には、電池  $E$  が並列につながっているため、求める電荷は、 $Q_2 = \boxed{CV \text{ [C]}}$ 。

### III

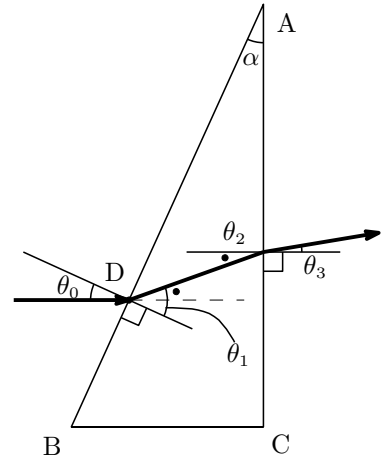
- (1)  $n < n_0$  なので、面 AB での反射による位相差は  $\boxed{0}$ 。面 AC での反射による位相差は、 $\boxed{\pi}$ 。

明線の生じる条件は、反射による位相差を考慮すると、 $2nx \tan \alpha = \left(m + \frac{1}{2}\right) \lambda$  (注:  $\lambda$  は真空中の波長) な

ので、 $x = \left(m + \frac{1}{2}\right) \frac{\lambda}{2n \tan \alpha} \doteq \frac{(2m+1)\lambda}{4n\alpha}$ 。

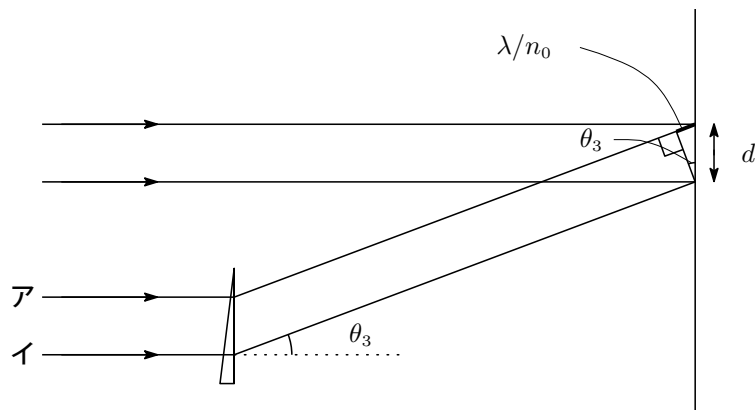
- (2) 下図より、 $\theta_0 = \alpha$ 、 $\theta_2 = \theta_1 - \theta_0$ 。また、屈折の法則より、 $n_0 \sin \theta_0 = n \sin \theta_1$ 、 $n \sin \theta_2 = n_0 \sin \theta_3$ 。以上から、 $\theta_0$ 、 $\theta_1$ 、 $\theta_2$ 、 $\theta_3$  は近似を用いて  $\alpha$  で表せる。  
 $\theta_0 = \alpha$ 、 $\theta_1 \doteq \frac{n_0}{n} \alpha$ 、 $\theta_2 \doteq \left(\frac{n_0}{n} - 1\right) \alpha$ 、 $\theta_3 \doteq \left(1 - \frac{n}{n_0}\right) \alpha$ 。明らかに、  
 $\theta_0 < \theta_1$ 、 $\theta_3 < \theta_2 < \theta_1$  が成り立つ。ここで、 $1 < n < n_0 < 2 < 2n$  であるこ  
 とに注意すると、 $\frac{n_0}{n} - 1 < 1$  が得られるので、 $\theta_2 < \alpha = \theta_0$  とわかる。

以上より、4つの角を大きい順に並べると、 $\boxed{\theta_1 > \theta_0 > \theta_2 > \theta_3}$  となる。



- (3) スクリーン面における光線ア、イの経路差は  $d \sin \theta_3$  であり、これが液体中の波長  $\lambda/n_0$  に等しいので、

$$d = \frac{\lambda/n_0}{\sin \theta_3} \doteq \frac{\lambda/n_0}{\theta_3} = \frac{\lambda}{(n_0 - n)\alpha}$$



講評：全体として、昨年より難化している。一昨年と同程度。大問 I の力学は、内容は易しいが計算量が多く、要領よく済ませないと時間がきつくなる。大問 II の電気回路の問題は、内容的には易しい。グラフも受験生なら一度は描いたことのあるグラフだろう。大問 III は難しい。一度やったことのある問題のように見えるかもしれないが、設定が良くある問題とは異なり、設問の内容も高度である。(3) の問題はやったことのある内容ではあるが、前問の内容を使って答えなければならない。(1) は取って欲しい。(2) は角度は求められるが、大きさの評価はなかなか難しいだろう。諦めずにうまく論述で点を稼いで、7割程度取れば良いだろう。